【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】令和4年5月19日(2022.5.19)

【公開番号】特開2020-202281(P2020-202281A)
【公開日】令和2年12月17日(2020.12.17)
【年通号数】公開・登録公報2020-051
【出願番号】特願2019-107918(P2019-107918)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｓ　5/14(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｓ　5/14

【手続補正書】
【提出日】令和4年5月11日(2022.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ピーク波長が異なる複数のレーザビームをそれぞれ出射する複数の外部共振器型レーザモジュールであって、少なくとも第１レーザモジュールおよび第２レーザモジュールを含む、複数の外部共振器型レーザモジュールと、
前記複数のレーザビームを同軸に重畳して波長結合ビームを生成するビームコンバイナと、
を備え、
前記複数の外部共振器型レーザモジュールのそれぞれは、リトロー型配置のコリメートレーザ光源および特定の波長の光を選択する回折格子を有しており、
前記複数の外部共振器型レーザモジュールは、前記複数のレーザビームが前記ビームコンバイナの同一領域に異なる角度で入射するように配列されており、
前記第１レーザモジュールから前記ビームコンバイナまでの第１の距離は、前記第２レーザモジュールから前記ビームコンバイナまでの第２の距離とは異なる、光源装置。
【請求項２】
前記第２レーザモジュールは、複数である、請求項１に記載の光源装置。
【請求項３】
前記複数の外部共振器型レーザモジュールのそれぞれは、前記第１レーザモジュールから出射されたレーザビームが、隣接する前記第２レーザモジュールの間の空間を通過するように配置されている、請求項２に記載の光源装置。
【請求項４】
隣接する前記第２レーザモジュールの最小間隔は、前記第１レーザモジュールの出射側端部における幅よりも狭い、請求項３に記載の光源装置。
【請求項５】
前記各ピーク波長は、３５０ｎｍ以上５５０ｎｍ以下の範囲にある、請求項１から４のいずれかに記載の光源装置。
【請求項６】
前記コリメートレーザ光源は、
封止された半導体レーザパッケージ内に収容されたレーザダイオードと、
前記レーザダイオードから出射されたレーザ光をコリメートするレンズと、

を有している、請求項１から５のいずれかに記載の光源装置。
【請求項７】
各ピーク波長は、４００ｎｍ以上４７０ｎｍ以下の範囲にある、請求項６に記載の光源装置。
【請求項８】
前記複数の外部共振器型レーザモジュールの個数は９個以上である、請求項１から７のいずれかに記載の光源装置。
【請求項９】
前記複数のレーザビームが前記ビームコンバイナの前記同一領域に入射する前記角度の間隔は、１度以下である、請求項１から８のいずれかに記載の光源装置。
【請求項１０】
前記複数のレーザビームの前記ピーク波長の間隔は、５ｎｍ以下である、請求項９に記載の光源装置。